

平成 23 年 1 月

学長 殿
関連部局長 殿

東北大学高等教育開発推進センター長
木島 明博
〔公印省略〕

第 14 回東北大学高等教育フォーラムについて（通知）

拝啓

新春の候、貴職におかれましてはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素から、本学の研究教育活動に対しては格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、本センター主催の第 14 回東北大学高等教育フォーラムを企画いたしましたので、お知らせいたします。年度が明け、4 月になりましたら、改めてご案内を差し上げますので、奮ってご参加ください。

末筆ではございますが、貴職のますますのご発展を祈念いたしております。

敬具

※なお、本フォーラムの連絡担当者は、下記の通りになります。どうぞよろしく願いいたします。

連絡担当者 倉元直樹 東北大学高等教育開発推進センター准教授
ntkuramt@m.tohoku.ac.jp
事務担当者 鎌田裕子 教育・学生支援部 教務課分室
tel 022-795-7551
fax 022-795-7647
y.kamada@bureau.tohoku.ac.jp

学習指導要領と大学入試

— 高大接続の原点を探る —

東北大学高等教育フォーラムも今回で第14回を数えることになりました。そのうち、高大接続関係のテーマを取り上げてきた「新時代の大学教育を考える」シリーズは8回目となります。昨年は初めて200名を超える方にご参加をいただきました。皆様のご協力に感謝いたします。

前回は大学入試の現場の最前線の問題として、大学入試問題の「質」について取り上げ、議論を行いました。今回はよりマクロな観点から、高校と大学の教育接続について考えることとします。

平成25年度からの指導要領の全面改訂を前に、平成24年度から理科、数学で新指導要領が先行実施されることが決まっています。そして、新指導要領の下で理科、数学を学んだ高校生が大学入試を迎えるのが平成27年度というタイミングになります。高校では、不確定要素の多い平成27年度入試をにらみながらも、来年度から始まる新しいカリキュラムの準備に迫られている状況でしょう。かたや、大学側が新学習指導要領に対して肌で感じている時間的な感覚は、高校現場とは若干の位相差があるのかもしれませんが。その差異によって高大の教育が分断されないためには、十分な情報交換が必要となるでしょう。

そこで、今回のフォーラムでは、基調講演者として**大学入試センター入学者選抜研究機構長の荒井克弘先生**をお招きしました。戦後日本の学習指導要領と大学入試制度の変遷をたどり、学習指導要領の変化がどのように大学入試に反映してきたのか、あるいは、学習指導要領と大学入試の高校教育に対する規定力がどのように変化し、それがどのような意味を持ってきたのか、そういったテーマでのご講演をいただきたいと考えています。さらに、高校からは2名の現状報告者をお招きし、学習指導要領の改訂と大学入試が高校教育に与える影響について語っていただきます。大学側の事例としては、学習指導要領の改訂に対する東北大学の検討課題について報告させていただく予定です。

講演と現状報告、討議を通じて、学習指導要領の改訂に応じた大学入試のあり方、その結果としてのスムーズな高大接続の実現方策について考えます。高校と大学が共通理解の下での建設的な協力関係を築くために、本フォーラムが一つの役割を果たすことを期待しています。

日時 平成23年5月20日（金） 13:00～17:30（受付開始 12:30）

会場 （仮）東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟マルチメディアホール

フォーラム内容

I 開会

II 基調講演 学習指導要領 VS. 大学入試 —その葛藤の軌跡といま—

大学入試センター入学者選抜研究機構長

荒井 克弘（あらい かつひろ） 試験・研究副統括官

III 現状報告 新学習指導要領と大学入試

(1) 宮城県仙台第二高等学校

渡邊 重夫（わたなべ しげお） 教諭

(2) 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

樫田 豪利（かしだ たけとし） 教諭

(3) 東北大学高等教育開発推進センター

倉元 直樹（くらもと なおき） 准教授

IV 討議

V 閉会